

●JCOMM プロジェクト賞

官学協働による「あさひまちバス」の運行・利用促進・まちづくり

富山県朝日町

京都大学大学院工学研究科・交通政策研究ユニット

富山県立泊高等学校

富山県朝日町は、人口約1万3千人で過疎地にも指定されている小都市であるが、2012年12月に運行を開始した「あさひまちバス」は、同月から2016年5月まで、42ヶ月連続で対前年同月の利用者数を上回り、現在も継続中である。

町内の路線バスが全て廃止されて以来、町が「公共バス」を運行していたが、町内移動をより便利にするため、2012年12月に京都大学の社会実験として「あさひまちバス」の運行を開始。その後、町が運行を引き継ぎ、自治町内会や高校、商工会青年部なども利用促進に取り組み、連続増加の成果を残してきた。

また、祭りや桜の季節には臨時便を出すなど、まちづくりの1つの要としての役割も果たしている。さらに、北陸新幹線開業後は、黒部宇奈月温泉駅への予約型直行バス「あさひまちバス・エクスプレス」を運行するなど、まちの活性化を支える手段となっている。連続増加の要因としては下記のような点を挙げることができる。

- ・ 運行開始時に大幅な利便性向上を実施し、公共交通への取り組み姿勢を明確にしたこと。
- ・ 路線とダイヤづくりのコンセプトが明確で、使いやすい路線・ダイヤとしていること。
- ・ 「飲み屋さん別時刻表」の作成など、町民サイドに立ったMMを継続的に実施していること。
- ・ 独自に開発したGPS利用の案内情報システムによって、駅・病院等で運行状況や遅れを表示。地方小都市としては極めて洗練されたバスシステムとなっていること。
- ・ 地元の富山県立泊高校では、観光ビジネスコースにおいて「はしれ！まちバス モビリティマネジメントの実践を学ぶ」をテーマに1年間の演習型講義を実施するとともに、交通調査や臨時バスの観光ガイド、案内システムのコンテンツ作成などのMMに取り組んだこと。

以上のようなことによって、町内のバス利用者は運行開始時の2.5倍以上となっており、「地方の小さな町でも、適切な政策と、町民と連携したMMによって利用者数を大幅に増やすことができる」ことを示した。

－JCOMM実行委員会から－

本プロジェクトは、地方小都市において、低コストのIT化や需要喚起につながる情報提供、高校でのMM講義等の行動変容を促すコミュニケーション手法を展開し、3年3か月にわたり前年同月増を継続する成果をもたらしており、「交通上の諸問題の緩和に対する実質的貢献」、「交通上の諸問題の抜本的緩和に繋がり得る新規性」において、高く評価され、JCOMMプロジェクト賞として選定されました。